研　　究

10代で出産した母親の母親行動とソーシャルサポートとの関連

平尾　恭子[1)]，上野　昌江[2)]

〔論文要旨〕

10代母親の母親行動とソーシャルサポートの実態およびその関連を明らかにすることを目的に，10代で出産した母親と20代以降に出産した母親を対象に質問紙調査を実施し比較検討した。結果，10代で出産した母親は，実母から手段的サポートを多く受けていたが($p<0.05$)，公的な育児サービスはほとんど利用せず，多くの者が相談したり母親同士交流する場を必要と感じていなかった($p<0.05$)。また，20代以降に出産した母親より乳児期母子相互作用を促進する行動が少なく($p<0.05$)，子どもより自分自身を優先する傾向にあり，20代以降に出産した母親に示されたような母親行動とソーシャルサポートとの関連はほとんどみられなかった。

したがって，10代母親への支援は青年期の特性を十分考慮し，早期から家庭訪問等により育児の方法を一緒に行いながら母親に肯定的評価を与え，子どもの関心や愛着を育んでいくことが重要である。また，同年代の母親同士が集まれる場を提供し，母親同士安心して語り合えたり，母親自身が楽しむことで自己実現に伴うニーズを満たし，母親として成人として成長することを支援していく必要がある。

Key words：10代母親，母親行動，母子関係，ソーシャルサポート

Ⅰ．はじめに

10代母親は形式的操作思考の獲得[1)]や，自身のアイデンティティの確立[2)]という成人として自立していく上での発達課題をもつと同時に，母親としてのアイデンティティも確立していかなければならず，人生で重大な発達課題達成の途上にいる存在である。そのため，まだ自己中心的な傾向があり，子どものことより自分自身の要求を優先したり，育児への長期的な見通しをもてず，子どもの発育・発達に応じた適切な養育行動をとりにくいことが考えられる。

また，夫や実母からのソーシャルサポートは，育児に対する肯定的感情や母子関係を促進させる要因として重大な意味をもつことが明らかにされており[3)～6)]，特に人間的にまだ未熟な10代母親にとって極めて重要なサポートといえる。しかし，10代母親は複雑な生育歴や家庭環境による社会的問題や経済的問題，望まない妊娠，社会からの孤立等，育児困難な要素を多くもつことも指摘されており[7)～10)]，周囲から適切なサポートを受けているか危惧される。

わが国の10代母親の全出生数に占める割合は年々増加傾向にあるが，2001年では1.8%[11)]と少数であり，その実数の少なさと母親が抱えている問題の複雑性ゆえに，10代母親を対象とした調査・研究は欧米に比べると少ない。特に，母親の養育行動やソーシャルサポートに関する

The Relationship between Maternal Behavior and Social Support for Mothers who Gave Birth in Their Teens　〔1657〕
受付 04. 9.10
採用 05. 2.23
Kyoko Hirao, Masae Ueno,
1）和歌山県立医科大学保健看護学部（保健師）　2）大阪府立看護大学看護学部（保健師）
別刷請求先：平尾恭子 和歌山県立医科大学保健看護学部　〒641-0011 和歌山県和歌山市三葛580
Tel：073-446-6717　Fax：073-446-6718

Presented by Medical*Online

ものはほとんどみられず，育児の実態やその問題の本質が十分明らかにされているとはいえない。したがって，本研究では10代母親の子どもへの愛着に基づく養育行動とソーシャルサポートの実態およびそれらの関連を明らかにし，10代母親が母親としてのアイデンティティを確立し，良好な母子関係を形成するための支援について検討する。

Ⅱ．用語の定義

本研究では母親行動を，Robson と Moss[12]が母親の子どもへの愛着指標として示した「愛や暖かさの感情，所有や献身，保護，幸福への関心，乳児の取り扱いを継続することの喜びへの欲求」に反映される感情，Bates ら[13]が母子相互作用を促進する母親の行動として明らかにした「子どもに対する母親の応答性と温かさに反映される行動，子どもの発達的進歩を意識的に奨励する行動」と定義して用いる。

また，ソーシャルサポートはHouse[14]の定義を用い，情緒的サポート，手段的サポート，情報的サポート，評価的サポートと4機能から分類し，母親へのサポートの状況をみた。

Ⅲ．対象および方法

1．対　象

大阪府にある人口約13万人のA市に在住し，1998年1月～2000年12月に10代で出産した母親（以下，10代出産群）127人，比較対象として20代以降に出産した母親（以下，比較群）273人を対象に，2001年9月自記式質問紙を郵送した。回答率は10代出産群40人（31.5%），比較群153人（56.0%）であったが，今回は第1子の母親を分析の対象としたため，回収率は10代出産群36人（28.3%），比較群83人（30.4%）であった。

2．調査項目

A．母親の背景

母親の属性（年齢，家族形態等），育児サービスの利用に関する項目とした。

B．母親行動

母親の子どもに対する愛着に基づく感情，母子相互作用を促進する母親の行動の20項目で，その程度を「よくする（かなりある）」4点から「しない（ない）」1点と4段階で評定した。

C．ソーシャルサポート

嶋[15]や新道[16]らの調査を参考に情緒的サポート5項目，手段的サポート2項目，情報的サポート2項目，評価的サポート2項目の計11項目を作成し，夫・実母・友人からのサポート量を「かなりある」6点から「全くない」1点の6段階で評定した。

3．分　析

次の方法により両群間の比較検討を行った。母親の属性および育児状況に関する項目はχ^2検定を行い，ソーシャルサポートはサポート源とサポート機能別にt検定を行った。母親行動は主因子法，プロマックス回転による因子分析後，抽出された6因子をt検定により比較した。ソーシャルサポートと母親行動との関連は，サポート源別・サポート機能別と母親行動6因子間でピアソンの積率相関係数を算出し比較した。分析には統計ソフトspss10.0Jを用いた。

倫理的配慮

質問紙への回答は自由意思によるものであること，データは匿名性を保障し，研究目的以外に使用しないことを研究依頼文書に示し，質問紙の回答をもって承諾を得たものとした。

Ⅳ．結　　果

1．母親の基本属性と育児サービス（表1）

10代出産群の出産時平均年齢は18.3±0.9歳で，その内訳は16歳1人（2.8%），17歳7人（19.4%），18歳9人（25.0%），19歳19人（52.8%）であった。夫の平均年齢は23.0±3.8歳で，19歳以下の割合は17歳1人（2.9%），18歳2人（5.7%），19歳2人（5.7%）で，夫のいない者が1人（5.6%）いた。核家族は10代出産群28人（77.8%）で，比較群77人（92.8%）と比べ有意に少なく（$p<0.05$），実家が同市内または隣市にある者は10代出産群22人（78.6%）で，比較群41（53.2%）に比べ有意に多かった（$P<0.01$）。また，妊娠がわかったときの気持ちとして，「とても・まあまあ嬉しかった」者は33人（91.6%）で，母親として「成長した・まあまあ成長した」者は32人（88.8%）あり，大多

Presented by Medical*Online

表1　母親の背景　　人(%)

		10代出産群 n=36人	比較群 n=83人	有意水準
対象の年齢	MEAN±S.D.	20.5±1.5歳	28.7±5.1歳	
出産時年齢	MEAN±S.D.	18.3±0.9歳	26.3±5.1歳	
夫の年齢	MEAN±S.D.	23.0±3.8歳	31.2±4.8歳	
子どもの年齢	MEAN±S.D.	1.8±0.9歳	1.8±1.0歳	
核家族		28(77.8)	77(92.8)	*
実家の場所	市内・隣市	22(78.6)	41(53.2)	**
妊娠後引越した		19(52.8)	29(34.9)	
妊娠がわかったときの気持ち	とても嬉しかった	21(58.3)	55(66.3)	
	まあまあ嬉しかった	12(33.3)	25(30.1)	
	あまり嬉しくなかった	2(5.6)	3(3.6)	
	嬉しくなかった	1(2.8)	0(0.0)	
母親としての成長	かなり成長した	16(44.4)	26(31.3)	
	まあまあ成長した	16(44.4)	49(59.0)	
	あまり成長していない	4(11.1)	6(7.2)	
	成長していない	0(0.0)	1(1.2)	
利用している育児サービス（重複回答）	妊婦教室（医療機関）	9(25.0)	39(47.0)	*
	妊婦教室（保健センター）	1(2.8)	16(19.3)	
	育児相談	0(0.0)	13(15.7)	
	赤ちゃん教室	0(0.0)	11(13.3)	
	子育てサークル	1(2.8)	7(8.4)	
必要とする育児サービス（重複回答）	経済的支援	21(58.3)	37(44.6)	
	公園などの遊び場	16(44.4)	45(54.2)	
	制度やサービスを教えてくれる場	14(38.9)	34(41.0)	
	日中いつでも子どもを預けられる場	11(30.6)	23(27.7)	
	相談できる場	9(25.0)	39(47.0)	*
	遊びやしつけを教えてくれる場	8(22.2)	28(33.7)	
	母親同士交流できる場	6(16.7)	30(36.1)	*
	子育てに関する講座	1(2.8)	15(18.1)	

*$p<0.05$　**$p<0.01$

数の者が10代の妊娠を喜び母親としての自分を肯定的に捉えていた。しかし，10代出産群が利用している育児サービスは，医療機関実施の「妊婦教室」が9人(25.0%)で，比較群39人(47.0%)と比べ有意に少なく（$p<0.05$），他のサービスは皆無に等しかった。そして，10代出産群が必要とする育児サービスは，「経済的支援」21人(58.3%)が最も高かったが，「相談できる場」は9人（25.0%），「母親同士交流できる場」は6人(16.7%)で，比較群と比べ有意に少なかった（$p<0.05$）。

2.　ソーシャルサポート（表2）

10代出産群の最も多いサポート源は実母であり，情報的サポート5.34±0.76点が最も多く，手段的サポート4.93±1.14点は比較群4.37±1.56点より有意に高かった（$p<0.05$）。また，次に多いサポート源は友人で，夫のサポートは実母，友人よりも少なく，特に情緒的サポート4.43±1.23点は比較群4.69±0.98点に比べ低い傾向がみられた。

3.　母親行動（表3）

母親行動20項目の因子分析は個有値1以上，因子負荷量0.35以上を示す6因子を抽出し，累

Presented by Medical*Online

表2 ソーシャルサポート MEAN（±S.D.）

		10代出産群 n＝36人	比較群 n＝83人	有意水準
夫	サポート合計	4.41(±1.05)	4.57(±0.84)	
	情緒的サポート	4.43(±1.23)	4.69(±0.98)	
	手段的サポート	4.11(±1.31)	4.22(±1.20)	
	情報的サポート	4.60(±1.26)	4.68(±0.98)	
	評価的サポート	4.43(±1.13)	4.63(±1.09)	
実母	サポート合計	5.04(±0.82)	4.94(±0.93)	
	情緒的サポート	5.01(±1.16)	5.11(±1.02)	
	手段的サポート	4.93(±1.14)	4.37(±1.56)	*
	情報的サポート	5.34(±0.76)	5.06(±1.01)	
	評価的サポート	4.94(±0.98)	5.04(±0.95)	
友人	サポート合計	4.70(±0.81)	4.63(±0.80)	
	情緒的サポート	5.31(±0.87)	5.13(±0.82)	
	手段的サポート	2.88(±1.37)	2.99(±1.52)	
	情報的サポート	4.75(±1.26)	4.70(±1.07)	
	評価的サポート	5.10(±0.83)	4.95(±0.90)	

*$p<0.05$

情緒的サポート：親身になって心配したり思いやったりしてくれる
あなたの感情や気持ちをわかってくれる
あなたが落ちこんでいるとき慰めてくれる
他人には言いにくいプライベートなことを話せる
悩みや心配事を真剣に聞いてくれる
手段的サポート：育児の手伝いをしてくれる
家事の手伝いをしてくれる
情報的サポート：困ったりわからないときアドバイスしてくれる
考え方ややり方の間違いを率直に伝えてくれる
評価的サポート：母親として認めてくれる
あなたをほめたり高く評価してくれる

積寄与率は61.62%，Cronbach's $\alpha=0.74$であった。各因子の特徴を第1因子《乳児期母子相互作用の促進》，第2因子《発育・発達の促進》，第3因子《子どもへの献身》，第4因子《子どもとの応答性》，第5因子《母親自身の重要性》，第6因子《自分より子ども優先》とし，各因子得点を両群間でt検定により比較した。

結果，10代出産群の因子得点は第3因子《子どもへの献身》のみ比較群と比べ高かったが有意差はなく，他の5因子はすべて比較群と比べ低かった。特に第1因子《乳児期母子相互作用の促進》は10代出産群3.73±0.36点で，比較群3.87±0.29点と比べ有意に低く（$p<0.05$），第6因子《自分より子ども優先》は10代出産群2.69±0.65点で，比較群2.90±0.65点と比べ低い傾向がみられた。

4. ソーシャルサポートと母親行動との関連（表4）

10代出産群は夫の「手段的サポート」と《自分より子ども優先》（$\gamma=0.484$）のみ正の相関（$p<0.01$）がみられた。一方，比較群では実母の「手段的サポート」と《乳児期母子相互作用の促進》（$\gamma=0.314$）に，「情報的サポート」と《乳児期母子相互作用の促進》（$\gamma=0.320$）に，「評価的サポート」と《乳児期母子相互作用の促進》（$\gamma=0.336$）・《発育発達の促進》（$\gamma=0.397$）・《子どもとの応答性》（$\gamma=0.370$）に正の相関（$p<0.01$）がみられた。また，友人の「情緒的サポート」と《乳児期母子相互作用の促進》（$\gamma=0.377$），《自分より子ども優先》（$\gamma=0.289$）に，「評価的サポート」と《乳児期母子相互作用の促進》（$\gamma=0.496$）・《発育発達の促進》（$\gamma=0.356$）・《子どもへの献身》（$\gamma=0.406$）に正の相関（$p<0.01$）がみられた。

Presented by Medical*Online

表3　母親行動　因子分析の因子負荷量および平均値

質問項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	MEAN（±S.D.）10代出産群	MEAN（±S.D.）比較群	有意水準
第1因子「乳児期母子相互作用の促進」							3.73（±0.36）	3.87（±0.29）	*
14.赤ちゃんの頃，目を見つめて話しかけた（かける）	0.767	0.078	−0.176	0.147	−0.039	0.071			
1.赤ちゃんの頃，ほおずりしたりだきしめたりした（する）	0.666	0.133	0.017	−0.051	−0.156	0.022			
23.子どもの笑顔を見ると自分も嬉しくなる	0.573	−0.069	0.183	−0.077	0.029	0.141			
第2因子「発育・発達の促進」							3.24（±0.57）	3.38（±0.50）	
25.子どもの食事や栄養には気を使っている	−0.032	0.652	0.115	0.029	0.127	0.101			
13.自分から絵本を読んだりおもちゃで一緒に遊ぶ	0.192	0.620	0.039	−0.026		0.005			
20.表情を変えたりして子どもが喜びそうな遊びをする	0.043	0.554	0.084	0.173	−0.115	−0.002			
第3因子「子どもへの献身」							3.54（±0.40）	3.49（±0.42）	
26.子どもと一緒に遊ぶのは楽しい	−0.017	0.075	0.705	−0.114	0.104	0.094			
6.子どものためになることなら何でもしたい	−0.014	0.138	0.673	−0.014	−0.151	−0.079			
11.どんなときでも子どもの気持ちを理解したい	−0.013	−0.016	0.567	0.090	0.163	−0.113			
第4因子「子どもとの応答性」							3.76（±0.33）	3.77（±0.35）	
18.戸外に出たとき目の届く範囲にいないと気になる	−0.286	0.258	−0.136	0.574	0.012	0.143			
16.ぐずったり泣きやまないときなだめられる	0.201	−0.188	0.018	0.559	0.172	−0.059			
8.赤ちゃんの頃，泣くとすぐにあやした（あやす）	0.104	0.092	0.026	0.509	−0.186	−0.299			
21.自分から子どもに声をかけたり話しかける	0.211	−0.022	0.021	0.460	0.149	0.115			
4.子どもが話しかけにきたとき興味がなくても相手をする	0.180	0.168	0.051	0.397	0.083	−0.045			
第5因子「母親自身の重要性」							3.54（±0.48）	3.59（±0.44）	
10.子どもを他の人に預けたときどうしているか気になる	−0.198	0.017	−0.007	0.048	0.641	0.052			
17.子どもにとって自分は重要な存在であると思う	0.183	0.165	−0.052	−0.184	0.574	−0.227			
24.できるだけ子どものそばにいてあげたい	−0.047	−0.088	0.067	0.127	0.570	0.080			
第6因子「自分より子ども優先」							2.69（±0.65）	2.90（±0.65）	
19.子どもは自分のしたいことをじゃますると思わない	0.153	−0.156	0.103	−0.028	−0.120	0.729			
5.子どもの夜寝る時間は大人の都合で変わらない	0.079	0.161	−0.246	−0.124	0.127	0.577			
15.子どもの世話より自分自身のことを優先しない	−0.060	0.196	0.152	0.041	−0.037	0.362			
固有値	5.403	1.733	1.549	1.342	1.192	1.107			
寄与率（%）	27.013	8.663	7.744	6.708	5.960	5.533			
累積寄与率（%）	27.013	35.676	43.419	50.127	56.087	61.621			

主因子法 プロマックス回転　Cronbach's α係数　0.74　　*$p<0.05$

Presented by Medical*Online

表4 母親行動とソーシャルサポートの相関（ピアソンの積率相関係数）

		情緒的サポート			手段的サポート			情報的サポート			評価的サポート		
		夫	実母	友人	夫	実母	友人	夫	実母	友人	夫	実母	友人
10代出産群	乳児期母子相互作用の促進	0.040	0.340*	0.123	0.204	0.140	0.332*	−0.065	0.156	−0.026	0.129	0.421*	0.169
	発育・発達の促進	0.078	−0.023	0.066	−0.116	−0.069	0.191	−0.149	0.106	0.139	−0.062	0.027	0.191
	子どもへの献身	0.067	0.081	0.062	0.045	−0.009	0.134	−0.133	0.284	0.104	0.080	0.329	0.197
	子どもとの応答性	−0.254	0.141	−0.114	0.020	0.021	0.041	−0.067	0.114	−0.140	−0.142	0.160	−0.103
	母親自身の重要性	0.209	−0.048	−0.222	−0.088	−0.127	0.170	−0.240	−0.156	−0.213	0.238	0.045	0.177
	自分より子ども優先	0.326	0.176	0.124	0.484**	−0.280	0.173	0.044	0.061	−0.017	0.299	0.283	0.147
比較群	乳児期母子相互作用の促進	0.060	0.252*	0.377**	−0.007	0.314**	0.169	0.032	0.320**	0.270*	0.147	0.336**	0.496**
	発育・発達の促進	0.129	0.177	0.159	0.011	0.214	0.039	0.000	0.242*	0.185	0.263*	0.397**	0.356**
	子どもへの献身	0.086	0.163	0.199	−0.109	0.136	−0.005	0.031	0.247*	0.153	0.060	0.269*	0.406**
	子どもとの応答性	0.025	0.187	0.189	−0.125	0.261*	−0.010	−0.076	0.268*	0.223*	0.254*	0.370**	0.280*
	母親自身の重要性	0.161	0.234*	0.176	0.021	0.158	0.021	0.077	0.284*	0.148	0.177	0.281*	0.275*
	自分より子ども優先	0.057	0.108	0.227*	−0.086	−0.048	−0.001	−0.078	0.048	0.289**	0.019	0.118	0.179

*$p<0.05$ **$p<0.01$

V. 考　　察

本研究対象の10代母親は，ほぼ9割が妊娠を肯定的に受けとめ，母親としての成長を実感していた。これは核家族の母親の8割が実家の近くに住みながら実母や夫，友人から多くのサポートを受けており，特に実母からの手段的サポートは比較群と比べ有意に多く，子育てを支援してもらえる環境にあることが影響していると思われた。

しかし，このように多くの身内のサポートがあっても，母親行動では乳児期母子相互作用を促す行動が比較群と比べ有意に少なく，子どもの心理的欲求に十分対応できていないこと，また，子どものために何でもしてあげたいという献身的な気持ちをもつ反面，子どもよりも自分自身の欲求を優先する傾向にあることが示された。このことから，地域看護職は実母の存在を重視し過ぎず，10代母親が専門的支援の必要な存在であることを再認識し，母子関係を強めるための支援を行っていく必要があると考える。

具体的には，思春期・青年期の特性を十分考慮し，ありのままの母親を受容しながら信頼関係を築き，家庭訪問等により母親の生活状況や実母との関係，母親の生活能力，育児能力等を見極め，個々のニーズに応じた支援を行っていく。これは，乳児の抱き方や乳児の目を見つめて声をかける等，一般的な母親が自然に行うと思われるスキンシップの方法を一緒にやってみせ，母親自身が習得できるよう支援することである[17)18)]。そして，10代で母親となることを選択した意思を尊重しながら，子どもにとっての母親の重要性や子どもの発育・発達について理解できるように伝え，母親のできていることを認めたり，努力を労うことで，自尊心や自己効力感を高めていく必要がある。

次に，本結果より，10代母親のうち相談したり母親同士交流する場が必要と感じている者は，比較群と比べ有意に少なかったこと，また，実母や友人から受けるサポートは，比較群にみられたように母親行動と正の相関を示さなかったことが明らかとなった。

Presented by Medical*Online

しかし，同じ立場の母親からのサポートは，母親役割の認識やアイデンティティの形成，自尊感情を高めることが示されている[16)19)]。また，青年期における友人の存在は新たな価値観や考え方，行動様式を提供するモデルとして，親から自立していく上で極めて重要な存在である[20)]。さらに，10代母親が世代の違う母親に意識的な隔たりを感じている一方で，同年代の母親同士のサブカルチャーを形成し，たくましく子育てしていること，母親となることで自身のアイデンティティを確かなものにしていることが報告されている[21)]。これらのことから，A市においても，10代母親が心理的距離を感じずに入っていける同年代の母親の交流の場を設け，母親の仲間づくりを促進していく必要があると考える。

ここでは，母親が自身の不安や悩みを安心して語り，他者からの共感を得ることで，自己の存在を認められること，また，母親の主体性を尊重し，母親自身が楽しめる内容とすることで，10代の自己実現に伴うニーズを満たしていくことが求められる[22)23)]。さらに，母親の年齢や家庭環境により個人のもつ問題は異なるため，そのことを十分考慮し，個別のニーズに対応しながらすすめていくことが重要である。

今回は母親行動とソーシャルサポートの量的研究で一市だけの調査であり，結果にみられたように回答を得た母親の多くは子育てを肯定的に捉えていた。10代であっても年齢による違いが大きく，また，個々にもつ心理・社会的問題が大きいほど量的調査では回答が得られにくいと考える。そのため，今後は対象地域を広げ，質的調査により個々にもつ問題の本質を明らかにし，母親への支援方法を検討していく必要がある。

Ⅵ. 結　　語

10代で出産した母親の多くは実家の近くに住み，比較群に比べ実母から手段的サポートを多く受けていたが，多くの者が公的な育児サービスは利用せず，同じ母親同士の交流を必要と感じていなかった。また，母親行動では乳児期母子相互作用を促進する行動が少なく，子どもに対する献身的な気持ちをもつ反面，子どもより自分自身のことを優先しがちで，比較群にみられたような母親行動と実母や友人のソーシャルサポートとの関連はほとんどみられなかった。

したがって10代母親への支援は，実母の存在を重視し過ぎず，まず家庭訪問等の個別的な支援により母親の生活能力や育児能力を見極める。そして，母親と一緒に育児を行いながら子どもに対する肯定的感情を促し，母親の子どもへの関心や愛着を育んでいくことが重要である。次に，同じ10代母親同士の交流の場を設け，自身のことを語ることで他者から共感される場を保障し，母親の主体性を尊重したプログラムとすることで母親の自己実現に伴うニーズを満たし，母親として成人としてのアイデンティティを高めていけるよう支援していく必要がある。

謝　辞

調査にご協力いただきました対象者の皆様，A市保健センター職員の皆様に深謝いたします。

本研究の要旨は第49回日本小児保健学会（2002，神戸市）で発表した。

引用文献

1) 浜田寿美雄．ピアジェとワロン．京都：ミネルヴァ書房，1998：249-251.
2) E.H Erikson．岩瀬庸理訳．アイデンティティ．東京：金沢文庫，1982：166-167.
3) Cutrona CE, Troutman BR. Social support, infant temperament, and parenting self-efficacy A mediational model of postpartum depression. Child Development 1986；57：1507-1518.
4) Mercer RT, Erkeitich S. Predictors of Maternal Role Competence by Risk Status. Nursing Research, 1994；43（1）：38-43.
5) 数井みゆき，無藤　隆，園田菜摘．子どもの発達と母子関係・夫婦関係 幼児を持つ家族について．発達心理学研究，1996；7(1)：31-40.
6) 川崎佳代子，小林慎子，北條恵美子．育児感情・育児行動の実態及び関連する要因―4歳未満の子供を育児中の母親の調査から―．母性衛生，2000；41(1)：158-169.
7) 林　謙治．十代の妊娠その諸相と問題点．東京：自由企画・出版，1987：91-120.

Presented by Medical*Online

8) 片桐清一．若年妊娠の社会的背景とその支援．周産期医学，2001；31(6)：745-748.
9) 藤江のどか．10代妊娠における心理的・社会的背景．助産婦雑誌，1988；42(10)：803-810.
10) 小島泰代，田中由子，堀田豊子他．当院における10代分娩の実態．母性衛生，1994；35(4)：252-256.
11) 厚生統計協会編．国民衛生の動向，東京：厚生統計協会，2003：43.
12) Robson KS, Moss HA. Patterns and Pediatrics, 1970；77：976-985.
13) Bates JE, Olson SL, Pettit GS, et al. Dimensions of individuality in the mother-infant relationship at 6 months of age. Child Development, 1982；53：446-461.
14) House JS, Kahn RL. Measures and concept of social support. Cohen, Syme SL. Social support and Health：Academic Press, 1985：83-108.
15) 嶋　信宏．大学生のソーシャルサポートネットワークの測定に関する一研究．Japanese Journal of Educational Psychology, 1991；39：440-447.
16) 新道幸恵，大久保功子，高田昌代他．出産後の女性の心の健康状態とソーシャルサポートの関係―ピアサポートに焦点をあてて．平成7年度厚生省心身障害研究報告書，1996；33-37.
17) 前川喜平．養育機能不全（親準備性の不足）と子育て支援．周産期医学，2001；31(6)：817-818.
18) リウ真知子．若年出産者への保健指導．ペリネイタルケア，1998；新春増刊：197-207.
19) 喜多淳子．妊婦が認知するソーシャル・サポートとソーシャル・ネットワークの質についての検討（第1報）―ソーシャル・サポートのサポート源および下位概念（4種類への分類）を用いた検討．日本看護科学学会誌，1997；17(1)：8-21.
20) 久世敏雄編．現代青年の心理と病理．東京：福村出版，1994：72-73.
21) 大川聡子：10代で出産した母親の実態と社会環境の課題．日本性研究会議会報，2003；16(1)：49-59.
22) 松山美紀，小永吉久留美，中森やよい他．西保健センターで開催している10代妊産婦の会の現状と展望．第41回日本公衆衛生学会近畿地方会，2002；75.
23) 和泉京子，新田紀枝．10代の母親の現状と必要なサポート，平成15年度大阪市指導研究会研究報告書，2003.

Presented by Medical*Online